

令和5年度

試験名： 推薦入試

【 医学群 看護学類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文(1)	<p>出題意図：新聞の記事を読んで、その内容を的確に捉え、これまでの自らの知識や経験と照らし合わせて、出題者の意図を考え、自らの意見を含めて文章化することができるか、すなわち、読解力、論理的な思考力、表現力を見る。</p> <p>問1 認知症のある高齢者に『やさしくする』というのはどのようなことか。上の文章をふまえてあなたの考えを述べなさい。</p> <p>採点基準：高校までに学んできた認知症に関する理解(個人的な体験を含む)や、社会、文化、保健などの知識を活かして論理的に述べているかどうか。本文から認知症のある高齢者への対応の難しさと望ましい対応について読み取っているか。これらを踏まえて個人が出来ることを考え論理的に説明できているかを採点する。</p> <p>解答例：</p> <p>私は、認知症のある高齢者に『やさしくする』ということは、認知症という病気や、認知症のある人が安心するような、望ましい対応の仕方に関する知識や技術を学びながら、認知症のある人に接しながら、言動に寄り添った対応を模索してゆくことにあると考える。</p> <p>本文から、みゆさんが当初、同じ話を繰り返す曾祖母に、やさしくなれなかった要因は、曾祖母が同じ話を繰り返すことが認知症の症状とわからなかったこと、望ましい接し方を知らなかったこと、そして認知症の病状は日ごとに違うことからその日の様子で異なる対応を求められることにあると考える。</p> <p>その後みゆさんは、学校で認知症という病気について学び、また専門家である祖母から認知症の高齢者への接し方について学んでいる。そして、曾祖母が帰宅時に声をかけると喜ぶ様子や、耳の聴こえが衰えたことで会話が困難であっても、家族と一緒にいるときに落ち着いた様子であることに気付けるようになった。みゆさんのように、正しい知識と技術を踏まえ、相手の日々の様子を観察しながら、最良の対応を試み考えていくことが、認知症のある高齢者にやさしくすることであると思う。</p> <p>問2 認知症のある高齢者に『やさしく』なるために、家族や地域社会ができることについて、あなたの考えを述べなさい。</p> <p>採点基準：問1の採点基準に加えて、家族や地域社会ができることについて、それぞれ論理的に説明できているかを採点する。</p> <p>現在、高齢者の5人に一人が認知症と診断される社会となるといわれており、誰もが認知症のある高齢者と接する可能性が高くなっている。また、核家族化が進んでおることから、日常生活上 介護が必要な家族への対応を限られた家族で対応しなければならない状況が生じている。とくに家族の中の出来事の解決について家族以外の人を借りることを、迷惑になるととらえ、家族だけで対応しようと抱え込み社会から孤立した結果、うつ病などの心の病気に至り、認知症のある高齢者に手を挙げてしまう事件が報道されている。</p> <p>このような事態を防ぐためには、地域社全体が、認知症の人にやさしい社会となること、具体的には、認知症のある高齢者のいる家族に地域社会が関心をもち、</p>

	<p>家族を孤立させない地域社会となる必要がある。とくに認知症のある高齢者のいる家族は、家族だけで高齢者の介護を抱え込まないようにすること、そのために、認知症のある高齢者の対応について困った際に、専門家に気軽に相談することが必要であり、地域社会に家族が相談できる場所が作られる必要があると考える。</p>
--	--

区 分	標準的な解答例又は出題意図														
小論文(2)	<p>問1 下線部①はどのようなことを意味しているか記述しなさい。また、下線部①について本文中に示された例以外の具体例5つを挙げ、その理由を述べなさい。</p> <p>出題意図：下線部①social determinants of health (健康の社会的決定要因) が何を意味するかを正しく捉え、本文中に取り上げられている income や educational attainment 以外の関連要因を考える問題であり、自分の体験やこれまでの学習内容を踏まえ解答することによって、物事を多角的な視点で考える能力と文章表現力をみる。</p> <p>採点基準：social determinants of health (健康の社会的決定要因) の意味を説明できる。本文中に示された以外の実例5つを示し、それぞれの理由について記述がある。</p> <p>解答例： 下線部①は健康の社会的決定要因であり、人々が健康であるかどうかを決定づけるのは生物学的要因のみならず、社会における様々な要因が関連していることを意味している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">要因</th> <th style="text-align: center;">説明(理由)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会的地位、社会的格差</td> <td>社会階層が高いことは安全で質の良い食品を入手でき、清潔な生活環境を維持できるため健康に良い影響を及ぼすと考えられる。社会的地位が低いと、平均寿命は短く、病気にかかりやすくなる。</td> </tr> <tr> <td>社会的人的支援ネットワーク</td> <td>家族、友人、地域社会からの支援は、生活の充実や精神的な健康に繋がり心身の健康の維持に重要である。</td> </tr> <tr> <td>雇用、労働環境</td> <td>働く場所があることは健康に良いと考えられる。失業は、経済的な問題を引き起こすとともに心身の健康を悪化させると考えられる。その際、働き方が厳しすぎず、また安全で働きやすい環境があることが、心身の健康をもたらす。</td> </tr> <tr> <td>社会環境</td> <td>市民の活力は地域社会や国における社会ネットワークの強化につながる。これは、人々の資源の共有や連携の形成といった機関、組織、非公式の仕事にも関連する。</td> </tr> <tr> <td>物理的環境</td> <td>空気、水、食品、土壌中に汚染物質があると、がん、先天性の障害、呼吸器疾患、胃腸症状など、さまざまな健康への悪影響をもたらすことがわかっている。</td> </tr> <tr> <td>個人の保健行動とストレスへの対応(ストレスコーピング)スキル</td> <td>疾病の予防を自ら問題に対処しようと試みるのが健康重要である。そのためにはストレスへの対応スキルが必要であるため。</td> </tr> </tbody> </table>	要因	説明(理由)	社会的地位、社会的格差	社会階層が高いことは安全で質の良い食品を入手でき、清潔な生活環境を維持できるため健康に良い影響を及ぼすと考えられる。社会的地位が低いと、平均寿命は短く、病気にかかりやすくなる。	社会的人的支援ネットワーク	家族、友人、地域社会からの支援は、生活の充実や精神的な健康に繋がり心身の健康の維持に重要である。	雇用、労働環境	働く場所があることは健康に良いと考えられる。失業は、経済的な問題を引き起こすとともに心身の健康を悪化させると考えられる。その際、働き方が厳しすぎず、また安全で働きやすい環境があることが、心身の健康をもたらす。	社会環境	市民の活力は地域社会や国における社会ネットワークの強化につながる。これは、人々の資源の共有や連携の形成といった機関、組織、非公式の仕事にも関連する。	物理的環境	空気、水、食品、土壌中に汚染物質があると、がん、先天性の障害、呼吸器疾患、胃腸症状など、さまざまな健康への悪影響をもたらすことがわかっている。	個人の保健行動とストレスへの対応(ストレスコーピング)スキル	疾病の予防を自ら問題に対処しようと試みるのが健康重要である。そのためにはストレスへの対応スキルが必要であるため。
要因	説明(理由)														
社会的地位、社会的格差	社会階層が高いことは安全で質の良い食品を入手でき、清潔な生活環境を維持できるため健康に良い影響を及ぼすと考えられる。社会的地位が低いと、平均寿命は短く、病気にかかりやすくなる。														
社会的人的支援ネットワーク	家族、友人、地域社会からの支援は、生活の充実や精神的な健康に繋がり心身の健康の維持に重要である。														
雇用、労働環境	働く場所があることは健康に良いと考えられる。失業は、経済的な問題を引き起こすとともに心身の健康を悪化させると考えられる。その際、働き方が厳しすぎず、また安全で働きやすい環境があることが、心身の健康をもたらす。														
社会環境	市民の活力は地域社会や国における社会ネットワークの強化につながる。これは、人々の資源の共有や連携の形成といった機関、組織、非公式の仕事にも関連する。														
物理的環境	空気、水、食品、土壌中に汚染物質があると、がん、先天性の障害、呼吸器疾患、胃腸症状など、さまざまな健康への悪影響をもたらすことがわかっている。														
個人の保健行動とストレスへの対応(ストレスコーピング)スキル	疾病の予防を自ら問題に対処しようと試みるのが健康重要である。そのためにはストレスへの対応スキルが必要であるため。														

(続き)

要因	説明(理由)
幼少期の健全な成長	幼少期の経験が脳の発達、通学する準備状態、その後の人生における健康にもたらす影響が大きい。そのため。
生物的・遺伝的素質	人体のいろいろな器官の生物的つくり(構造)や遺伝的な素質は、健康に影響をもたらす。
医療	特に健康の維持と増進、疾病の予防、機能の回復といった医療行為は、集団の健康に寄与する。
性別(ジェンダー)	性は、さまざまな社会的に決められた役割、人格特徴、態度、振る舞い、価値観などに影響し、健康の社会的決定要因となる。
文化	医療へのアクセスや疾病予防行動を行うかどうかの選択に文化的背景が影響する場合がある。
社会的排除	社会から排除され孤立することで、生活の質が下がり、苦痛、憤慨、貧困、差別などをもたらす、疾病や寿命も短くなる可能性がある。
食品	安全な食品を手に入れられること、また、健康的な食生活環境を整備することは健康をもたらすうえで重要である。
交通	公共交通機関の充実により、個人が移動できる範囲が広がり、孤立を防ぎ、社会参加を促し、健康につながる。自動車の運転も移動範囲を広げる役割がある。

参考1) カナダ公衆衛生機関の定義による健康の社会的決定要因

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/health-promotion/population-health/what-determines-health.html>

参考2) 世界保健機関(WHO)は、健康の社会的決定要因に関する意識の向上を目的として、1998年よりソリッド・ファクト(しっかりとした根拠のある事実)を公表している。(2003年に第2版公表)ソリッド・ファクトでは、社会的決定要因として以下の要因を説明している。

[https://www.euro.who.int/\\_\\_data/assets/pdf\\_file/0005/98438/e81384.pdf](https://www.euro.who.int/__data/assets/pdf_file/0005/98438/e81384.pdf)

問2. 下線部②について本文の主旨を踏まえて説明しなさい。また、高齢者のDigital accessibilityについて本文からどのような社会にあり方が求められるか、あなたの考えを述べなさい。

出題意図: 下線部②が何を意味するかを本文全体から正しく捉え、表現する力と本文の内容を踏まえて自らの考えを適切に説明し記述する能力をみる。

採点基準: 下線部②の本文の示す内容を理解し、その背景や主旨について説明ができる。自らの考える高齢者のDigital accessibilityを改善する方法について本文の内容を踏まえて論理的にわかりやすく記述できる。

解答例

下線部②は、高齢者においてIT技術の普及によって生じる「隠れた弊害」が

危惧され、そうした隠れた弊害を解決することが必要であることを述べている。IT 技術は、本来、健康を目指す上で必要な情報や方法にアクセスしやすくし、IT 技術を活用することで人々が健康をより達成しやすくする「良いこと」と考えられる。しかし、IT 技術が広く普及し、どんな場面でも IT 技術の活用が必要になるにつれ、IT 技術を使えないことがメリットを享受できないだけでなく、かえってデメリットになるような事態があるのではと本文から読み取ることができる。このデメリットが、前に述べた「隠れた弊害」であり、他の年齢層に比べて高齢者は IT 技術の活用に不得手な人が多い。そのため、昨今の IT 技術と健康の関連が強くなることは、相対的に高齢者がこの「隠れた弊害」を受けやすくなることにつながると考えられる。

2つ目の問の、「どのような社会のあり方が求められるか」についてであるが、1つ目の問に対して述べた「隠れた弊害」をできるだけ無くすような社会のあり方が求められると私は考える。確かに高齢者にとって、それまで使っていなかった道具は使いづらいだろう。高齢者が使いやすいように、高齢者向けのスマートフォンもあるし、市役所などの入力パッドは、とても大きな字で表示されるように工夫もされている。しかし、そうした高齢者の方が使いやすいような工夫がなされている場面は、あくまで一部である。私も日常的に IT 技術を知らず知らずのうちにたくさん使っているわけだが、おそらく私が使っている IT 技術すべてを高齢者が簡単に使えるわけではないと思う。おそらくこのちょっとした差が、さきほどから述べている「隠れた弊害」につながる恐れがあるのではないかと思う。ただ、このちょっとした差を日常的に意識することも難しそうである。実際、私もこうした文章を読んで、自分が日常的になんなく楽しく使っている IT 技術を、簡単に使えずに、あるいは使うことを知らない人がいるということを改めて意識した。こうした状況を改善するためには、他者の視点、とりわけ弱者の視点に立つことが重要だと考える。自分の経験や周りの環境のみで考えずに、弱者の声をとらえ、弱者とともに考えていくことが求められていくであろう。そのため高齢者における IT 技術の使いにくさなどの解消には、当事者参加型の開発を行うといったことの実現が求められ、やがて「隠れた弊害」も改善されていくのではないかと考える。例えばデジタル技術についていけない高齢者などを対象としたサポートサービスを、当事者とともに考え、公的機関や民間機関で充実させることを提案したい。そうすれば、例えば彼らの自尊心を傷つけないような指導方法を心得たサポーター養成が可能となる。そのほかにも、彼らが従来のデジタルデバイスに感じる不便さや扱いにくさについて話し合いながら、それらを考慮した新たなデバイスの開発や普及を促すことが介入として考えられる。

#### 参考資料

総務省 | 令和 3 年版 情報通信白書 | デジタル活用支援 (soumu. go. jp)  
<https://www.soumu. go. jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd111430.html>